

裏磐梯地域におけるカニムシ相(蛛形綱:カニムシ目)

はじめに

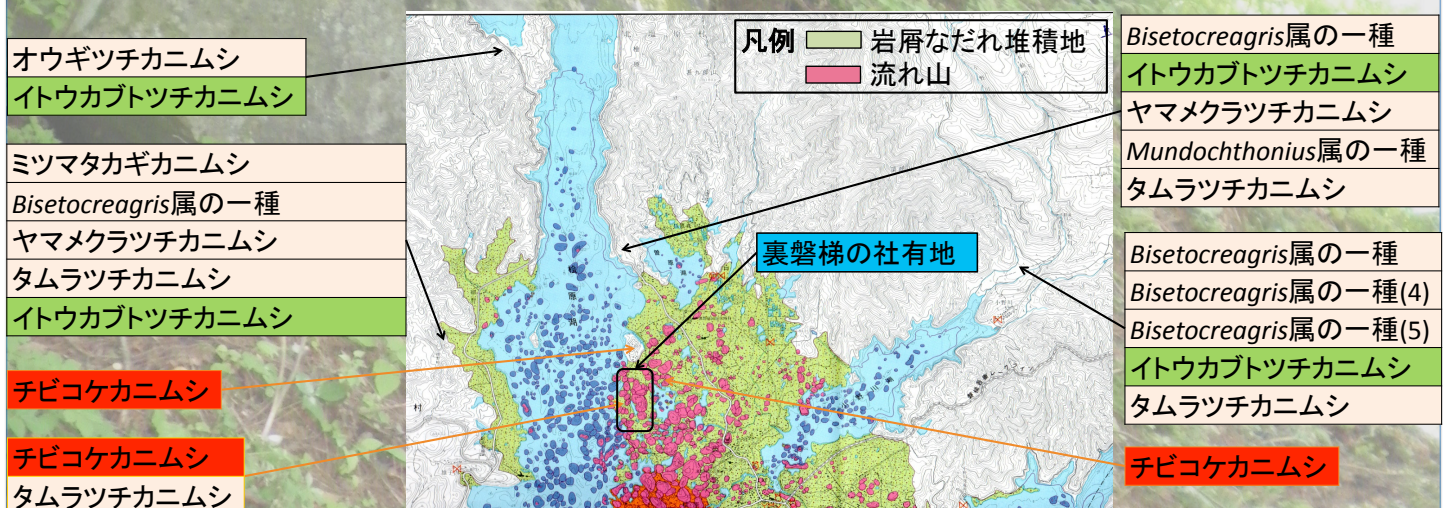
福島県の裏磐梯地域は1888年の磐梯山の噴火による土石流などの影響を受けた地域です。この噴火の影響で植生がリセットされた場所では、植物やそれに由来する土壌が大きく攪乱されたため、そこに生息していた土壌動物にも噴火の影響が見られるはずです。

そこで、カニムシ目の中の土壌性種を用いて、噴火が土壌動物に及ぼした影響を調査しました。

カニムシとは

節足動物門鋏角亜門蛛形綱カニムシ目に属する体長1-7mmほどの小動物であり、湿度の高い森林土壌中や石の下、朽木中に生息する種が多いですが、洞窟や家屋内など生息場所は多岐にわたります。また、触肢を用いてトビムシ類やダニ類などの小型節足動物を捕食します。

裏磐梯地域におけるカニムシ類の分布



チビコケカニムシ
[プレパラート標本]



チビコケカニムシ
[成体写真]



タムラツチカニムシ
[プレパラート標本]



*Bisetocreagris*属の一種
[プレパラート標本]



ヤマメクラツチカニムシ
[プレパラート標本]

1888年の磐梯山噴火の影響を受けている地域と、受けていない地域との間で、生息するカニムシ類に大きな違いが見られました。チビコケカニムシは人為や自然による攪乱を強く受けた環境にも生息が可能であるため、噴火の影響を受けた地域にも分布しているものと考えられます。

裏磐梯地域における社有地は、人為による攪乱を受けておらず、噴火(自然による攪乱)の影響だけを検討する場として非常に有用です。

調査者: 福島大学共生システム理工学類・宮下 諒(生物圏環境解析研究室)